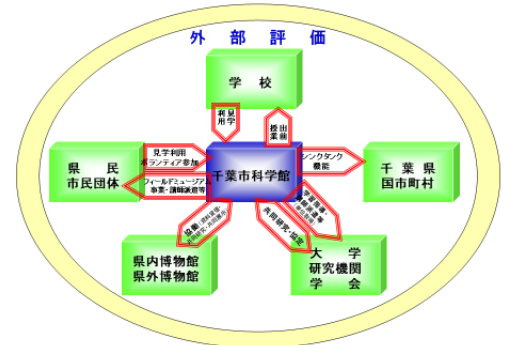
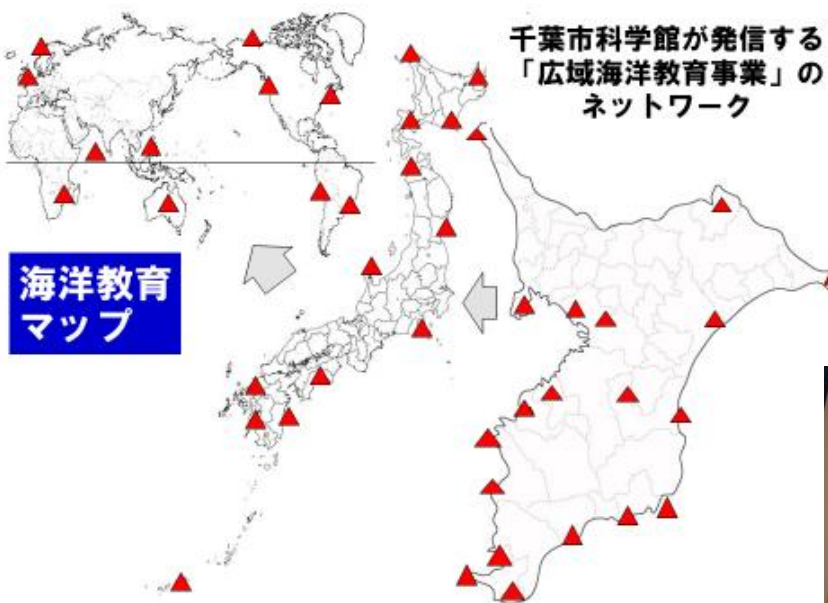


## 千葉市科学館

千葉市科学館「海の学び PROJECT」が展開する海洋教育の  
実践と、全国的横断事業展開への提言に向けて【事業中止】

調査研究期間：2020年3月1日（日）～2020年5月31日（日）

### 海洋教育ネットワーク概要



テーマ研究のための参考文献

### 【調査研究の内容・目的】

- 我が国の海洋教育の在り方について、生涯教育、学校教育の側面から先進的な取り組みの実践事例を調査することで、3か年の研究プログラムを構築し、千葉市科学館が発信する全国的横断事業の可能性を検証することを目的とした。
- 事業展開に際しては、大学や博物館等の研究機関はもとより、地元を活動の場としているNPO等市民団体や市民を巻き込む形で多様な実施体制を導入することとし、今後は、この実施体制をさらに拡充、強化する目的で他機関等が実践している事例の調査を推進し、その個々について検証・考察しようとしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により実地調査が出来なくなったため、事業そのものが中止となった。

# 1. 調査研究内容の詳細

## 【調査研究代表者】

- 武岡 英雄（千葉市科学館 地域連携グループ）

## 【調査研究分担者】

- 新 和宏（千葉市科学館 館長補佐）
- 山口 眞理子（千葉市科学館 事業戦略担当）
- 松尾 知（千葉市科学館 地域連携グループリーダー）

## 【実施計画】

- 3カ年計画1年目（全10年計画における第一期）

## 【主な調査研究対象など】

- 全国規模での博物館等社会教育機関、学校等諸地域において実践されている事例の調査を推進し、その個々について検証・考察を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により、事業中止となった。

なお、今回実地調査は行えなかったが、当初訪問予定先との連絡や連携体制は一部整いつつあるため、今後はこの相互関係を維持しつつ、それぞれのテーマでどのようなワークショップ等の教育活動を展開できるか、科学系博物館だけに留まらず、領域を超えて様々な機関と連携しながら創出していくこととしたい。

※以下のとおり、本来実施を計画していた調査研究内容を記す

- ◆館内で構成している「海の学びPROJECT」メンバーによる海洋教育をテーマに実践している博物館や研究機関等の実態調査とその検証。
- ①茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会・茨城県北ジオパーク推進協議会主催のツアーに参加し、資源問題、エネルギー問題を考える素材収集。
- ②新江ノ島水族館を訪問し、水族館における海洋教育の実態調査と課題の検証、及び、千葉市科学館における諸事業との連携事業の在り方検討、加えて、企画展関連調査として深海生物の資料調査を実施。
- ③銚子ジオパーク・千葉科学大学を訪問し、バスツアー実施のための実踏、及び、大学連携の協議。
- ④エフピコ・ミュージアムパーク茨城県自然博物館を訪問し、バスツアー事前実踏。
- ⑤沖縄美ら海水族館を訪問し、水族館における海洋教育の実態調査と環境問題に関する諸事業の調査。
- ⑥GODAC 国際海洋環境情報センターを訪問し、海洋環境関連の事業調査及び事業連携の協議。
- ⑦五島海洋エネルギーツアー参加にてエネルギー開発とその実態等について学ぶ。
- ⑧海と博物館研究所を訪問し、事業連携の協議等。
- ⑨北九州エコタウンセンター訪問により、次世代エネルギー及び環境問題等の実態調査。

## 2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

- 博物館活動の形態：単館による事業展開ではなく、海域・陸域の制約を持たない全国的ネットワークを利活用した広域海洋教育の事業推進形態の創出
- 実施時期：事業構築段階を含めて第一期事業として10か年を想定
- 実施場所：千葉県内全域、及び、全国的な規模で海域・陸域の全領域をターゲット

### 【実施内容】

- ・千葉市科学館が創出する海洋教育の「学びプログラム」を構築。
- ・同プログラムの県内事業展開と、適時スパンでの事業評価と改善策構築。
- ・全国的な海域・陸域の諸施設と当該フィールドを舞台とした同プログラムの利活用。
- ・各年度における事業評価とその検証、改善策構築。
- ・第一期を3小期に分け、関係者間において次の事業期に向けた事業昇華フォーラムを展開。
- ・第一期の最終年度は、次期（第二期）事業体制の構築を具現化。

### 【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

- 海洋教育の全国的ネットワークの基盤として、県内の博物館、大学等研究機関、及び、国県市町村行政部署、NPO等市民団体、市民とのコラボレーションは必須。相互にInteractiveの関係を強化

### 【特に学校教育との連携について】

- 同事業体形は、特に学校教育とのかかわりを重視しており、次世代の研究母体をはじめ、自然・社会環境問題等の担い手としての後継者育成を最重要項目として掲げる。千葉市科学館が発信する「海洋教育の視点による全国的横断事業」の展開体制を創出することで海洋国日本の次世代を担う人材育成を具現化。

## 【事業全体のまとめ】

2019 トライアルの実態調査自体は新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施できない状況であったが、2020 年度以降のプランニングも具体化してきており、週ごとに定期的な協議の場を設定するなどし、各メンバーが様々な手法で多岐に渡る情報の収集をしたデータ等の共有を図っている。このような体制構築を推進していることから、海洋教育の推進とその全国的な横断事業の展開におけるシステム構築については、着々とその準備は進んでいる。今回は残念ながら事業中止となってしまったが、訪問予定先との連絡や連携体制は一部整いつつあるため、先方との連携を維持しながら今後の実施を目標に調整を続けたい。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 茨城県次世代エネルギー推進協議会	資源問題、エネルギー問題を考える素材収集協力
2. エフピコ	海洋教育事業開発に向けた事前調査協力
3. ミュージアムパーク茨城県自然博物館	海洋教育事業開発に向けた事前調査協力
4. 沖縄美ら海水族館	海洋教育実態調査・環境問題に関する調査協力
5. GODAC 国際海洋環境情報センター	海洋環境関連事業調査・事業連携の協議

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 事業中止のため無し	
2.	
3.	
4.	
5.	

以上